

日本旧石器学会

ニュースレター 第2号

NEWS LETTER No.2
JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

特別寄稿

新北遺跡

李起吉 (朝鮮大学校教授)

金正培訳 (明治大学大学院)

1. はじめに

長興新北 (シンブック) 遺跡 (写真 1) は朝鮮大学校博物館により、2002 年 5 月はじめ国道 2 号線の工事区間で発見され、2003 ~ 4 年にかけて約 7 ヶ月間発掘調査が行われた。この遺跡は推定面積が少なくとも 4 万坪以上になり、韓国で報告された後期旧石器時代の遺跡のなかでもっとも大きい。6 千坪の発掘から約 3 万点あまりの遺物が出土され遺物の密集度が高く、炉址が 6 つ検出されていて旧石器時代人の暮らしの様子が窺えるところである。

遺跡は全羅南道長興郡長東面北橋里新北村に位置している。‘ゴムンデュンイ’ と呼ばれる長くて浅い丘陵地 (海拔 190 ~ 165m) の南にある。丘陵地は長さ約 1km、幅約 100 ~ 350m で、東と西は水田があって水田の中に小川が流れている。視野を広げてみると、‘ゴムンデュンイ’ は主に 200 ~ 400 m の山に囲まれた直径 2 km 以内の盆地内中央西側へ寄り添ったところに位置している。この盆地の南はゼアム山 (海拔 778m)、北側は寶成江 (ボソンガン) 本流へと繋がる。



写真 1 冊子の (写真 1) 写真 1 空から見た新北遺跡

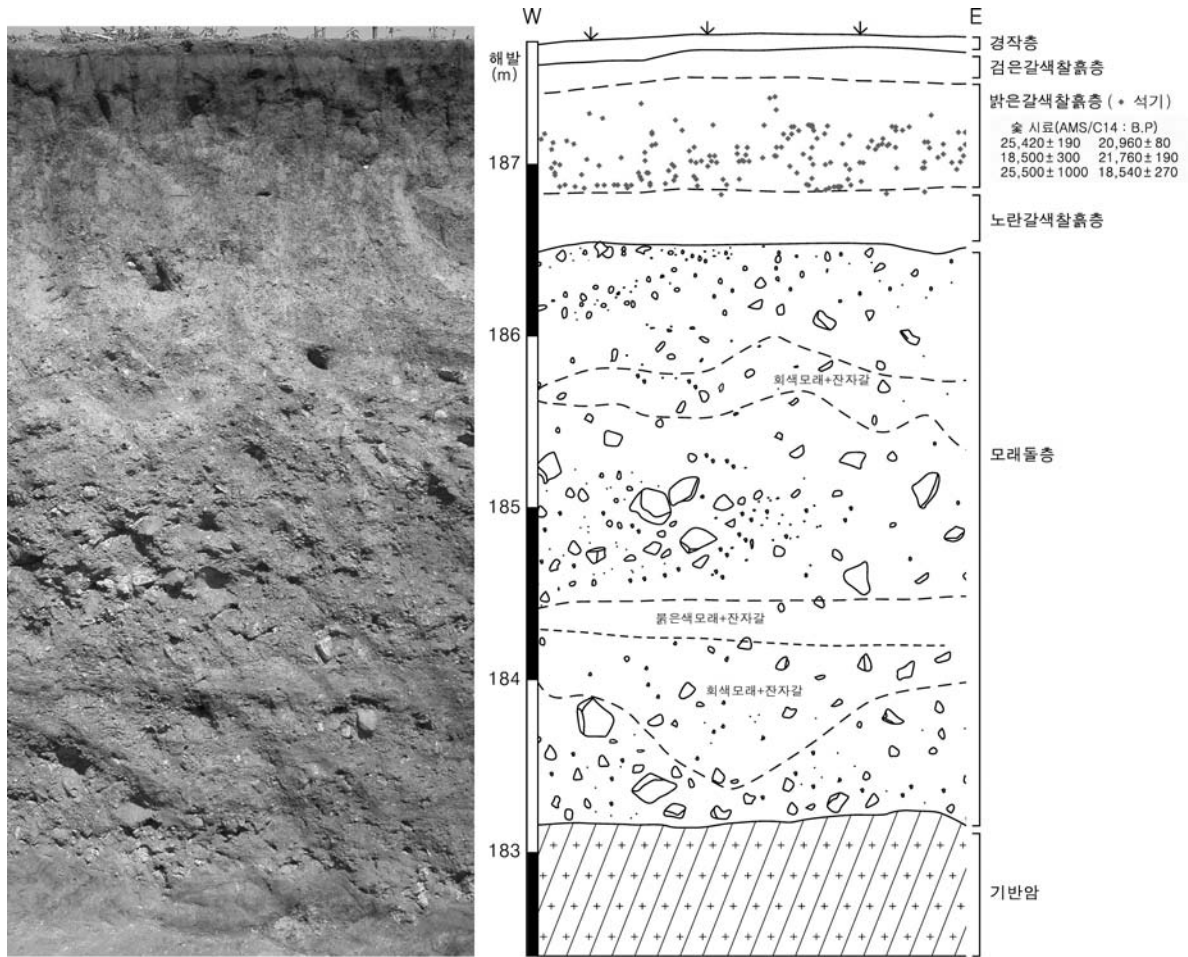


図1 冊子の (図2) 地層と文化層 (I37グリット北壁)

新北遺跡の周辺には 22ヶ所の旧石器遺跡が存在するのが朝鮮大学校の地表調査により知られている。これらの遺跡から発見された遺物はほとんどが酸性火山岩製と珪質岩製の搔器、削器などで、石英脈岩礫で作られた石器も含まれていて、中期～後期旧石器時代にかけての遺物と判断される。

2. 地層と文化層

新北遺跡の層位は下から上に向かって、基盤岩 → 砂礫層 → 褐色粘土層 → 表土の順である(図1)。基盤岩上に砂礫層が不整合に 3.5m 程度積もっている。砂礫層の上部に行けばいくほど粘土成分が多くなりながら、褐色粘土層へと自然につながる。褐色粘土層は、約 1m の厚さで下から黄褐色、明褐色、黒褐色に細分され、それぞれの厚さは約 29cm、57cm、18cm で、褐色粘土層にはいわゆるソイルウェッジ現象はみられない。その上は耕作による黒褐色を帯びた表土層で、厚さは 18cm 内外である。

遺物は褐色粘土層の中で明褐色粘土層に集中していて、B～H列からは少ないが黒褐色土層とその境界、または下部からも出土している。表土層を基準にしてみると、ほとんどの遺物は深さ 50～85cm の間からで、平均の厚さは 25cm 内外である。遺物は南-北方向に約 3.2 度の緩やかな傾斜で分布していて、接合する石核と剥片そして同じ石材から剥がされた石器類が集中している点などから、旧石器時代人が遺跡を離れた後、ほとんどそのままの状態が残っているとみられる。

3. 遺物組成

遺物の構成をみると剥片石器が主流を成していて磨製石器が一部含まれる。剥片石器の石材として酸性火山岩(流紋岩、凝灰岩)、水晶、黒曜石、玉髓(chalcedony)、珩岩、石英脈岩などが、そして磨製石器の石材としては酸性火山岩、板状片麻岩、片麻岩、片岩、砂岩、泥岩、珩岩などが用いられた。

石器のなかに細石刃は100点余りで細石器が主流を成しているのを見せている。それと同時に搔器、彫器、削器、剥片尖頭器、槍先形尖頭器(bifacial thick point)が出土している(写真2)。彫器と搔器は形式が多様で数量も多い。剥片尖頭器は5点で完形が1点出土していて、先端が折れたのが4点ある。槍先形尖頭器は横に折れているが柳葉形だと思われる。直接剥離による加工が行われていて、最大幅は30mm、最大厚さ13mmで元の長さは130mmと推定される。

一方、磨って刃を立てた2点の磨製石斧(105×50×14mm、111×59×21mm)と2点の砥石(194×63×58mm、138×37×18mm)があり、磨石、石皿、凹磨石、円形凹石、異型石器

など20点あまりがある(写真3)。磨られた板状石の中には回りを整え大きさを調整した後、磨ったものもあった。そして、赤色顔料として用いられる鉄石英礫が出土している。

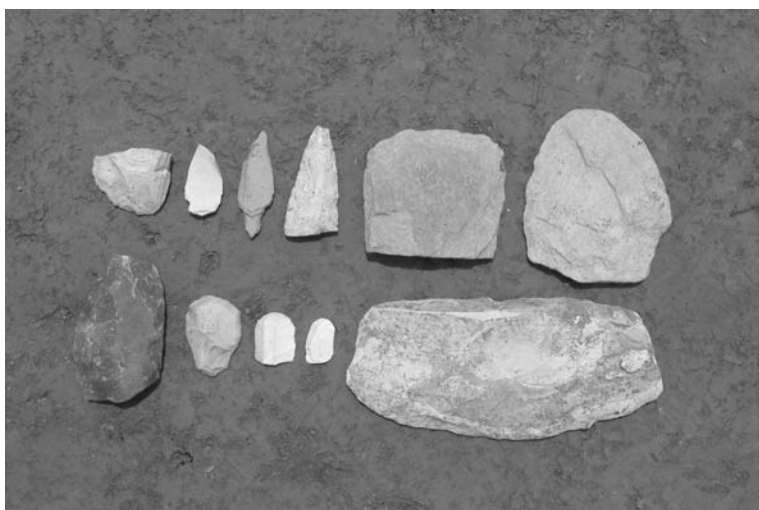


写真2 冊子の(写真3-1)いろいろな剥片石器

4. 炉址

炉址がD37、E15、F13、F14、F15、L17グリットで6つ検出された。その中で、F13グリットの炉址の直径は東西45cm、南北33cmで、E15グリットの炉址の直径は東西57cm、南北55cmである(写真4)。炉に使われた石は主に凝灰岩で、石英脈岩も少量含まれている。比熱礫周辺からは小さい炭片が出土しているが、周辺の土の色が黄色に変色したり、硬くなったりする変化はあまりはっきりしてない。一方、3号炉址(E15グリット)の回りからは搔器、細石刃核などの剥片石器類と砥石が出土している。



写真3 冊子の(写真4)いろいろな磨製石器と粗割石器

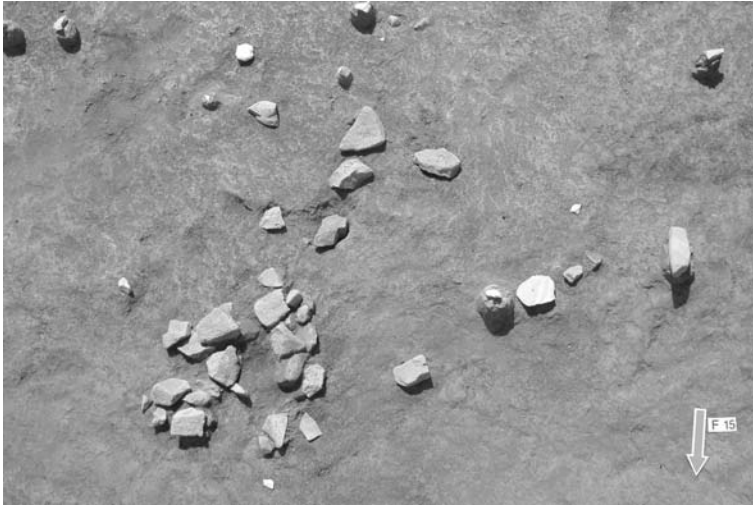


写真4 3号炉址と細石刃核及び砥石

5. 遺跡の年代

文化層の中から検出された炭の中に炉址、接合する石核と剥片、鉄石英、磨られた板石のような遺構や特定遺物とともに、或いは周辺で出土したのを6つ選びAMS方式で年代測定をした結果、18,500～25,500B.P.(SNU03-568、569、912～915)の値が得られた。これらC-14年代は最大7,000年の差があるがすべて後期旧石器時代に属する。遺跡で主流を占めてい

る石器が細石刃核、搔器、彫器などである点から年代測定結果は妥当だと思っている。

新北遺跡は4万坪を越える遺跡の規模、6千坪余りから出土した3万点の遺物と6つの炉址、絶対年代、そして周辺に分布する22ヶ所の旧石器出土地点を考慮すると、細石器段階の大規模生活場所である拠点遺跡として思われる。特に一緒に出土した磨製斧、砥石、円形凹み石、磨られた板状石などの石器類は韓国の後期旧石器時代時代に磨製技法が用いられていた事実をはっきりと証明している。さらに、日本の後期旧石器時代の磨製石斧とともに東北アジアの後期旧石器文化を新しい観点から理解する必要性を提起している。

2003年度前半期活動報告

2003年5月22日(土)に役員会を千葉大学で開催し、各委員会の活動報告ならびに今後の会運営、事業計画について話し合った。ニュースレター第1号の事業計画で報告したように、会誌・ニュースレターの刊行、研究集会(シンポジウム)の開催、データベースの作成などの事業計画の推進が改めて確認されるとともに具体案が検討された。また、東アジア旧石器学会設立に向けての情報交換がなされた。

次に、2003年12月20日の日本旧石器学会設立総会以降、2004年8月末までの各委員会の活動内容について概要をまとめておきたい。

総務委員会

1. 日本旧石器学会役員選出規定案、会則の一部改正案、日本旧石器学会役員・開会監査委員・顧問選出規定案を起案し、5月22日の役員会で検討した。役員選手つき提案は12条からなり、①役員選出は選挙管理委員会が実施すること、②投票は10名連記で行うこと、③役員定数22名は北海道・東北・関東・中部・近畿・中四国・九州の7地区の最高得票者1名および総

得票数の上位 15 名をもってあてること、④会長は役員互選によること、⑤本会発足から 2 期目の役員については、全役員が交代してしまうと支障があるので、その半数をもう 1 期に限り再任できる規定を設けること等を骨子とする。役員会ではおおむねこの方向で了承され、時期総会の議案を作成することとなった。

2. 第 1 回シンポジウム予稿集は 10 部を保存分とし、残りは販売委託することとした。

会計委員会

1. 会費未納会員・発起人に事務局から督促状を発送した。

2. 2004/2005 年度予算案について原案を役員会に提出し予備的な議論を行った。

2. 2004 年 5 月 23 日の日本考古学協会などで新入会員の募集を行った。

会誌委員会

1. 会誌名は『旧石器研究』と決定した。

2. 投稿規程案を役員会に提出し、一部修正のうえ原案が了承された。創刊号は原稿の公募締め切り 7 月末で、2005 年 5 月発刊に向けて編集作業を行う。A 4 版総頁数 160 頁前後、論文 4 篇、研究ノート 1 篇、書評 2 篇などを収録の予定である。

3. 投稿規程、執筆要項を会員に発送し、会誌の原稿募集を行った。

ニュースレター委員会

1. ニュースレター第 1 号を発行した。

2. 第 2 号の編集を行った。

渉外委員会

1. 中国・韓国・ロシアの学会及び関連する個人宛に日本旧石器学会設立の挨拶状を会長名で送付した。

2. 今後の活動方針として、①東アジア旧

石器学会設立に向けて、日本側のガイドラインの検討を行う、②国際的な学会・研究会に積極的に参加し、関係国当事者と意見・情報交換を行う、③上記の三ヶ国以外の国々や国内の研究団体に対しても日本旧石器学会に関する情報発信を行うなどを役員会に提案し、了承された。

研究企画委員会

1. 第 2 回シンポジウムのテーマとして「石刃技法の展開と石材環境」、内容として①記念講演、②問題提起、③石刃技法と石材、④石刃技法の行動パターンを骨子とすることを役員会に提案し、細部について異は委員会であつめることであつ承された。

2. 原案の骨子に沿って具体的な発表内容、発表者を選定した。

データベース委員会

全国遺跡データベース作成案を役員会に提案した。データベースの内容は、①日本列島に所在する全ての旧石器時代遺跡（一部縄文時代草創期を含む）の台帳を作成する、②データの作成は学会員を中心に進めるが、できるだけ多くの専門研究者に協力を依頼する、③ 2005 年 6 月までに基礎台帳の入力を完了するなどであり、データベースのフォーマットについて一部修正を行って了承された。

国内関連学会の動向

2004 年に国内で開催または開催予定の関連学会のうち主なものについて紹介する。

1 月～9 月

「大学と科学」公開シンポジウム (第 18 回)

開催日 1 月 24 日 (土)・25 日 (日)

テーマ アイデンティティに悩むネアンデルタール

—化石人類研究の最前線—

- 開催場所 東京国際交流館
 近畿旧石器交流会 (第 27 回)
 開催日 1 月 31 日 (土)
 開催場所 奈良県橿原市橿原考古学研究所
 テーマ 奈良県馬見二ノ谷遺跡の発掘資料検討
- 石器原産地研究会 (第 4 回)
 開催日 4 月 3 日 (土)・4 日 (日)
 開催場所 佐賀県多久市多久聖廟
- 東京大学公開セミナー
 開催日 4 月 29 日 (木)
 開催場所 東京大学文学部
 テーマ 後期旧石器時代研究の最新の成果
- 国際学術会議
 開催日 5 月 15 日 (土)・16 日 (日)
 開催場所 東京都明治大学
 テーマ SUYANGGAE and Her Neighbours
- 長野県旧石器文化研究交流会 (第 16 回)
 開催日 6 月 19 日 (土)・20 日 (日)
 開催場所 長野県信濃町公民館野尻湖支館
 テーマ 杉久保遺跡の石器群をめぐる諸問題
- 岐阜県博物館特別展シンポジウム
 開催日 8 月 22 日 (日)
 開催場所 岐阜県岐阜市岐阜県博物館
 テーマ 東海の旧石器時代
- 黒曜石サミット国際研究集会
 開催日 9 月 2 日 (木)～6 日 (月)
 開催場所 東京都立教大学、長野県長門町鷹山黒耀
 石体験ミュージアム・緑地等管理中央
 センター、長野県長門町明治大学黒耀
 石研究センター
- 石器づくりシンポジウム in しらたき
 開催日 9 月 11 日 (土)・12 日 (日)
 開催場所 北海道白滝村国際交流センター
 テーマ 黒曜石が語る技と知恵
- 石器文化研究交流会 (第 10 回)
 開催日 9 月 25 日 (土)・26 日 (日)

- 開催場所 東京都府中市郷土の森博物館
 内 容 第 1 部 調査・研究発表会
 第 2 部 織笠 昭 記念「野川流域遺跡、
 その分布・立地・遺跡構造」

10 月～12 月

- 中・四国旧石器文化談話会 (第 21 回)
 開催日 2004 年 11 月 13 日 (土)・14 日 (日)
 開催場所 鳥取県東伯郡関金町関金総合文化センター
 テーマ 鳥取県における旧石器文化の様相
 問合先 中・四国旧石器文化談話会鳥取大会実行委
 員会 (担当: 根鈴輝雄) 鳥取県倉吉市仲ノ
 町 3445-8 倉吉博物館気付
 TEL0858-22-4409 Fax0858-22-4415

長野県考古学会秋季大会

- 開催日 10 月 30 日 (土)・31 日 (日)
 開催場所 長野県伊那市イナッセ
 テーマ 神子柴系石器群をめぐる諸問題
 問合先 長野県考古学会事務局 (堤隆、
 tsutsumi@avis.ne.jp) 長野県北佐久郡御代
 田町大字馬瀬口 1901-1 浅間縄文ミュー
 ジアム気付 TEL0267-32-8922

岩宿フォーラム・シンポジウム

- 開催日 11 月 6 日 (土)・7 日 (日)
 開催場所 群馬県笠懸町笠懸町公民館
 テーマ 武井遺跡の槍先形尖頭器
 問合先 笠懸野岩宿文化資料館
 TEL0277-76-1701 FAX0277-76-1703
 k3-edu@kasakakemachi-gnm.ed.jp

九州旧石器研究会 (第 30 回)

- 開催日 2004 年 12 月 4 日 (土)・5 日 (日)
 開催場所 熊本県熊本市国際交流会館
 テーマ 九州旧石器文化研究の到達点 —これまで
 の成果で何がわかったか—
 問合先 九州旧石器文化研究会 第 30 回記念大会
 実行委員会 事務局 (担当: 稲津暢洋・岩

谷史記・山下宗親) 熊本県熊本市浜口町

124 熊本市文化財資料室内

TEL / FAX096 - 227 - 4390

お 知 ら せ

第2回総会

日本旧石器学会第2回総会は、下記の日程で、2004年12月18(土)・19(日)に東京都立大学・講堂小ホール(東京都八王子市)において開催いたします。

12月18日(土) 10時-17時

総 会 (10:00-12:00)

講 演 (13:00-13:40)

黒曜石は環境情報記録媒体である ―とくに産地推定の最近の動向について 鈴木正男
シンポジウム 石刃技法の展開と石材環境

1. 問題提起 (13:40-14:00)

石刃技法と石材環境をめぐって 松藤和人

2. 石刃技法と石材 I (14:00-16:50)

①ルヴァロワ技法から石刃技法へ ―レバノン、クサル・アキル遺跡の例 大沼克彦

コメント 山田しょう

②珪質頁岩の石材環境と石刃技法

渡辺丈彦

コメント 米倉 薫

③中部高地における黒曜石原産地と石刃技法

大竹憲昭

コメント 小菅 将夫

④白滝黒曜石原産地における石刃生産

木村英明

コメント 鈴木 宏行

12月19日(日) 9時-15時

2. 石刃技法と石材 II (9:00-10:10)

⑤九州島および朝鮮半島における石刃技法と石材

小畑 弘己

コメント 志賀 智史

⑥ユーラシアにおける石刃技法 西秋良宏

コメント 加藤 博文

3. 石刃技法の技能・行動論 (10:25-12:10)

①石刃技法の技能論 阿部朝衛

コメント 鈴木 美保

②石刃技法期の遺跡構造 野口 淳

コメント 須藤 隆司

③石刃技法期の行動パターン 国武貞克

コメント 佐藤 宏之

4. 討論 (13:00-15:00)

申し込みにつきましては、お名前・住所・電話番号・E-mail アドレスを明記の上、第1日目・懇親会・第2日目の参加希望をそれぞれ明記して、11月30日までにハガキまたはメールで下記のあて先までお申し込み下さい。

はがき：〒385-0022 長野県佐久市岩村田1292-4 堤 隆

メール：tsutsumi@avis.ne.jp

会費納入のお願い

日本旧石器学会会員の資格を得られた方でまだ会費を納めていない方は、同封の郵便振替用紙にて会費5,000円を速やかに納入して下さい。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。

日本旧石器学会ニュースレター
第2号

2004年9月30日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会
安蒜政雄・藤野次史

発行：日本旧石器学会

事務局：愛知学院大学文学部白石研究室

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12

電話 05617-3-1111 ~ 8 (内線257)

E-mail hshira@dpc.aichi-gakuin.ac.jp